

Profile



©Marco Borggreve

ミヒャエル・ザンデルリンク (首席指揮者)

Michael Sanderling (Principal Conductor)

2011年よりドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者を務めている。

彼は、同楽団のほかにも、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、チューリッヒ・トーンハレ管、ミュンヘン・フィル、ベルリン・コンツェルトハウス管、トロント響、都響、ヘルシンキ・フィル、モスクワのチャイコフスキー響、チェコ・フィル、バンクーバー響、ケルンWDR響、南西ドイツ放送響などの著名オーケストラを指揮している。

ドレスデン・フィルとは、アジア、南米、アメリカ、スペイン、英国、オーストリア、スイス、ドイツへのツアーを定期的に行っている。また2015年からは、ソニー・クラシカルとの協力のもと、ベートーヴェンとショスタコーヴィチの交響曲全集の録音を行い、現在2枚のCDがリリースされている。

ベルリン生まれのザンデルリンクは、オーケストラの演奏者から一流指揮者の仲間入りを果たした数少ない一人である。1987年、20歳でマズア指揮/ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管のチェロ・ソリストとなり、1994年から2006年までベルリン放送響で同職を務めたほか、ソリストとして、ボストン響、ロサンゼルス・フィル、パリ管ほか多数のオーケストラに客演した。

初めて指揮台に立ったのは、2000年、ベルリン室内管弦楽団のコンサートだったが、これで火がついた。伝説的な巨匠クルト・ザンデルリンクの息子として、幼い頃から指揮者の仕事を良く知るミヒャエルは、次第に指揮活動が主軸となり、2006年にボツダム・カンマーアカデミーの芸術監督兼首席指揮者に就任した。

才能ある若手音楽家との共演にも熱心に取り組んでおり、フランクフルト音楽舞台芸術大学の教授を務めるほか、連邦ユージュント・オーケストラ、エルサレム・ワイマール・ユース・オーケストラ、ユンゲ・ドイチュェ・フィルハーモニー管、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭管と定期的に仕事を共にしている。



ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団

Dresdner Philharmonie

©Marco Borggreve

ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団は、ザクセンの州都ドレスデンのオーケストラとして、150年の伝統を誇っている。その歴史を通して、コンサート・オーケストラであると同時に、定期的にオペラ・コンチェルトやオラトリオの分野にも果敢に取り組んできた。本拠地は、旧市街の中心にある文化宮殿の中に2017年4月にオープンした最先端のコンサート・ホールである。

首席指揮者は、2011年よりミヒャエル・ザンデルリンクが務めている。1967年～1972年に首席指揮者を務めたクルト・マズアのほか、前任者には、パウル・ファン・ケンベン、カール・シューリヒト、ハインツ・ボンガルツ、ヘルベルト・ケーゲル、マレク・ヤノフスキ、ラファエル・ブリューベック・デ・ブルゴスなどがいる。

ドレスデン・フィルは、音楽的にも様式的にも幅広いレパートリーを持つ。ロマン派のレパートリーでは極めて独特な“ドイツ”サウンドを維持しつつ、バロック音楽、ウィーン古典派、現代音楽に必要なサウンドとスタイルの柔軟性も培ってきた。初期の頃から著名な作曲家が同楽団の指揮台に立っており、その中には、ブラームス、チャイコフスキー、ドヴォルザーク、リヒャルト・シュトラウスから、ペンデレツキ、ホリガーまでが含まれている。

新作の初演は今も同楽団のプログラムの重要な部分を占めている。世界各国に招かれて演奏を行っている事実は、ドレスデン・フィルがクラシック音楽界で高い名声を享受していることの証明である。また1937年に始まる同楽団の膨大なディスコグラフィも特筆に値する。現在、ミヒャエル・ザンデルリンクの指揮のもと、ショスタコーヴィチとベートーヴェンの交響曲を組み合わせた新しいCDシリーズが、ソニー・クラシカルからリリースされている。

名古屋国際音楽祭 組織委員

名誉顧問

大村 秀章 愛知県知事

顧問

高橋 純一 大阪国際フェスティバル統括

早川 茂 トヨタ自動車㈱取締役副会長

名誉会長

河村たかし 名古屋市長

会長

林 尚樹 ㈱CBCテレビ代表取締役社長

委員

藤井 知昭 音楽評論

加藤 直次 ㈱CBCテレビ報道・番組総局長

佐藤義比古 ㈱CBCテレビ報道・番組総局事業局長

運営事務局

㈱CBCテレビ報道・番組総局事業局事業部